

## 第10回「防潮堤を勉強する会」要旨

日時：2012年9月18日（金）18時から20時30分 場所 ワンテン大ホール

### 1 講演 「防潮堤とまちづくりその相克と今後」

講師 東北大学教授 大学院工学研究科 教授 平野勝也 氏

- ・防潮堤建設の根拠となる海岸法の目的は国土の保全。
- ・防潮堤をL1 L2とわけて考えたのは、被災地と全国、海岸と河川との公平性を考えるためと、災害に対して二段構えでやるのが基本となっている部分がある。
- ・国と県と地域住民の中に温度差がある。歴史的には500年に一度、被災者にとっては現に体験した津波でしかない。これが難しいところ。
- ・高台移転に関して、まずは防潮堤と二重投資にならないかということ、そして移った後のコミュニティの問題、山に潜むリスクを考えて持続可能かを考える必要がある。
- ・L1防潮堤の必要不必要は多数決では決められない。一人でも反対の意見があれば実施はできない。
- ・行政は法律に書いてあることしかできない。行政の文書を読み解き、理論的な角度から自分たちの意見を反映させることができるように提案していく必要がある。
- ・難しい点ではあるが、L1防潮堤を暫定高として扱い下げる可能性もある。
- ・L2を防御するために起こる色んな矛盾点を総合的に考えて、はっきり答え決めていかないと問題は解けていかない。
- ・安全か、安全じゃないかという2元的な議論ではなく、程度問題を語るべき。
- ・今の世代だけではなく、今後の50年100年の気仙沼を決めるすごく大事な仕事になる。しっかり考える必要がある。

### 2 質疑からわかったこと

- ・スピードとのバランスを考えて、環境アセスメントは実施されないと思われる。景観、環境に対してのより具体的な配慮を訴えかける余地はあるかもしれない。
- ・浮上式やフラップゲート式の防波堤は、メンテナンスに費用がかかる。安くても土の方が圧倒的に安い。復興事業で国から補助ができるのは建設まで。維持管理は県で行っていく。その負担とのバランスを考慮する必要がある。
- ・養殖や漁業への悪影響を唱える時、防潮堤の影響なのか潮の流れの変化の影響なのかきちんとしたデータが必要になる。
- ・孤立集落を作らないための道路は守らなければいけない。道路が走っている海沿いに防潮堤が建つ必要性は高い。

<次回 第11回「防潮堤を勉強する会」> 9月27日（木）16時～ 本郷 アーバン

●テーマ：「巨大堤防の検証と国の考え方」 講師 東北大学 教授 今村文彦 氏